



菊づくりをかえる 元気に専科

- 体質が強くなり
病気が出にくくなる!!
- 光合成が高まり
生長が早まる!!
- 草勢が高まり
イキイキと育つ

よい培養土により肥料・適切な使い方優秀花

毎年同じ失敗をくり返している人は
あとをたたない

培養土は通気性や排水性など物理性や化学性、生物性などの条件を整え、根張りや生育がよくなるように作られています。

植物は自前で作れる栄養分は光合成により作られる糖だけです。

その他の栄養分は培養土中から吸い上げ生長しています。与えた肥料は土中微生物の働きで分解され根が吸える形に変えられ培養土に保持されます。

植物は培養土中の必要な栄養分を必要なだけ吸い上げて生長しています。

「肥料を与える」ことは培養土中の不足した栄養分を補うことです。

よって肥料を与えることは植物が健全な生育をする為の重要な土づくりの一部と言えます。

「土と肥料」は別々な物ではなく表裏一体であると考えるのが妥当です。

したがって使用する肥料や与え方によっては土は「よくなったり」また「悪くなったり」全く変わって

しまいます。

これは土中の微生物の働きを活発にするのか、それとも働きを悪くしてしまうのか肥料の選び方によって全く逆の結果になってしまいます。(生育の良い培養土は微生物の塊です)

これは微生物の栄養源(エサ)との因果関係により決まってしまう。

土中微生物は有機肥料をエサに増殖と活動をしています。

化学肥料は微生物のエサにはならない為、微生物は枯渇し、活動は期待できなくなります。

培養土の通気性や排水性、保水力などは土中微生物の働きが中心となって成り立っているからです。(注:粗大な材料を中心とした培養土づくりでは通気性や排水性はよくても保水力や保肥力がなく、力強い生育は望めない)

よって、よい培養土に有機肥料中心の使い方をしない限り、まともな菊づくりにはならないと言えます。

大失敗をしない為のチェックポイント

イイ花咲いても失敗しても一年の苦労は同じ

つくる前からダメとわかっていることは止めることが大切

化学肥料は使わない(極力避ける)

乾燥肥料は有機質肥料を発酵したものです。

ところが乾燥肥料と称して売られている物でも中味はほとんど化学肥料の商品も存在します。

これを知らずに使っていたのでは菊づくりは根底からくってしまいます。

また液体肥料は化学肥料がほとんどです。

(液肥は化学肥料も有機肥料も関係ないと思っ

ている方がいますがこれは大間違いです)

上質な液肥は有機成分にアミノ酸を添加していま

す。アミノ酸の質と量で液肥の品質が決まります。

「アミノ酸配合」の表示は現在高級液肥の代名詞になっています。

その為にわずかなアミノ酸を配合して堂々と表示をしている商品もある。(販売対策としてのアミノ酸添加)

表示する為には使用する上でアミノ酸の効果が認められる商品でなくては何の役にも立ちません。

液肥を購入する場合はこの点は非常に重要なポイントになります。(4頁につづく)



アミノ酸の質と配合量は効きめの証

他社商品と比べたら

断然お買得

おすすめの液肥です!!

